

第3回京丹後市公営プールのあり方検討会議_会議結果報告書

1. 開催概要

日時:令和7年10月9日(木)9:30~11:45

場所:峰山総合福祉センター(東館)2階会議室

出席者:委員8名、事務局、傍聴人7名

2. 会議の位置付けと進め方の確認

- ・ 本検討会議は「京丹後市の公営プールのあり方」を提言する場。網野温泉プールの個別論だけでなく、学校プールや健康増進の将来像も含めて全市的な議論が必要。
- ・ 会議は当初3回で提言予定だったが、意見集約のため第4回会議を開催へ。
- ・ 提言は多数決ではなく、合意形成を重視して進める。

3. 主な論点と意見

○ 公営プールは市にとって必要か

- ・ 健康増進、教育(水泳指導)、地域の魅力・機会均等の観点から「必要」と結論づける方向。(各委員も同意)
- ・ 一方、市民アンケートでは「利用しない」という回答が多く、財政制約も強いいため、理想と現実のバランスを取る必要がある。

○ 将来の整備方針(理想像と設置場所)

- ・ プール施設の理想像は、プールに加えジム等を併設し、指導体制や防災機能も備えた多機能拠点(豊岡事例を参照)。
- ・ 提言案では、設置場所は「峰山地域」と明記していたが、地域名は外し、「交通利便性が高い」「市民が利用しやすい」等の抽象化へ修正方向。
- ・ 公共施設全体の最適配置や健康増進のランドデザインの策定が必要ではないか。

○ 当面の対応(財政確保までの暫定措置)

- ・ 近隣(豊岡・与謝野)や市内民間プールの活用、利用促進のための交通・利用料金への補助等を検討。
- ・ 学校プール老朽化・酷暑対応も踏まえ、教育の代替実施に近隣施設の活用を含める。
- ・ 民間1ヶ所だけでは、受け入れ態勢が不足するという意見や、移動時間に対する意見があるが、現実的な対応として、近隣プールの活用の検討を提案。

○ 網野温泉プールの取り扱い

- ・ 現状は、条例が廃止された施設であり、老朽化が進んでいる。
- ・ 耐震基準は、建設年から旧耐震基準であることは確認できている。

- ・ プールの新設には最短でも 3 年程度を要し、空白期間解消の現実策として、委員長案として施設の限定的再開(必要最小限の修繕で安全確保の上、暫定運用)を提案。
- ・ 既に廃止された施設であり、再開するには修繕等の手続きも含め3年は必要であり、新設する場合と同様の期間が必要。
- ・ 費用比較をすれば、新設の方が全市民の納得感を得やすい。
- ・ 利用者の立場として、「最小限の改修で早期再開」を強く要望。修繕箇所や改修方法の見直しでコスト圧縮の余地がある。
- ・ 旧耐震施設の再開は、事故時の市の責任や損害賠償のリスクが懸念される。

○ 学校プールの今後

- ・ 現在の現場対応は、見学児童は屋内座学、プールサイドは人工芝敷設等の熱対策を実施。
- ・ 豊岡では「学校プール改修はせず、壊れたら公営プールを活用」という方針。
- ・ 民間 1 カ所だけでは全児童は受け入れ困難。
- ・ 酷暑・老朽化を踏まえ計画的更新・代替手当の事前の検討が必要。
- ・ 当面は自校プールを活用しながらプール授業を実施。

○ 財政・優先順位・合意形成

- ・ 人口減少下での財源制約は大きく、全公共施設の中での優先順位付けが不可欠。
- ・ 合併市として全域バランスの視点が必要(既存施設の立地にこだわらず、全市で最適な場所を検討)。
- ・ 感情・理想と経済・安全のバランスが必要。

○ その他

- ・ 網野温泉プールのトイレ、バリアフリーについては、現代的ではない。
- ・ 浅茂川温泉の灯油のタンクなど、災害時に活用できるのではないか。
- ・ 網野温泉プールの屋根の構造は、震災時に屋根材が落下するという事例報告がある。
- ・ 「補足」は階層を明確化(補足 1、2…)。「まとめ」は「おわりに」へ。

○ まとめ(全体観)

- ・ 公営プールの必要性は概ね共有できた。
- ・ ただし、財政制約・安全確保・全市的公平性・将来の持続性を満たす現実的な方策を示す必要がある。
- ・ 将来の理想(多機能拠点)と当面の暫定策(近隣・民間活用)、および網野温泉プールの取扱い(限定的再開の是非)を「セット」で提示し、市民理解を得る構成が求められる。
- ・ 場所や施設仕様はランドデザインの中で判断。網野温泉プールの立地を理由に場所の固定化は避ける一方、既存資産の暫定活用の可能性も丁寧に検討する。